

重症新型コロナウイルス感染症による医療の逼迫について

新型コロナウイルス感染症の第3波による感染急拡大により、感染症治療以外の医療が甚大な影響を受けています。

すでに京都府内のいずれの医療機関においても救急患者の受け入れに支障がでており、予定の入院や手術が延期を余儀なくされています。

この状況を鑑み、これまで京都府において新型コロナウイルス感染症重症患者の入院治療を担ってきたすべての病院が共同し、医療崩壊に関する警鐘のメッセージを発出いたします。

新型コロナウイルス感染症重症患者受入医療機関からのメッセージ

1. 新型コロナウイルス感染症の重症患者数が増加しており、京都府においてこれまで重症患者を受け入れてきた病院が重症患者を受け入れる余裕がなくなりつつあります。

このまま感染が拡大し、新型コロナウイルス感染症の重症患者数が京都府において30名（京都市において15名）に達した場合には、がん、脳卒中、心臓病あるいは救急医療など通常の医療が殆ど停止するような医療崩壊をきたしかねない危機的な状況になります。

2. 医療崩壊を防ぐためにも、またコロナ以外の疾患を持つ患者の救える命を救うためにも、人々が移動し無症候の陽性者と接触する機会を減らして、新規感染者の発生を抑える必要があります。

国民の皆様におかれましては、行政のGo To政策にかかわらず、感染拡大が収まるまでの間、不要不急の外出や多人数での飲酒を伴う会食などを何卒お控えいただきますようお願い申し上げます。

3. 現在、京都府のモニタリング指標から「特別警戒基準」という警告が出されており、1日の新規陽性患者（1週間平均）が50人台の日が続いています。この数が20人程度になれば1段階下の「警戒基準」に戻り、何とか医療機関も持ちこたえられ、経済も回しながらコロナ禍を乗り切ることができると考えます。どうぞよろしくご協力のほどお願いいたします。

京都大学医学部附属病院	病院長	宮本 享
京都府立医科大学附属病院	病院長	夜久 均
京都第一赤十字病院	病院長	池田栄人
京都第二赤十字病院	病院長	小林 裕
京都医療センター	病院長	小池 薫
宇治徳洲会病院	病院長	末吉 敦
京都市立病院	病院長	黒田啓史
京都桂病院	病院長	若園吉裕
康生会武田病院	病院長	武田 純
医仁会武田総合病院	病院長	三森経世
洛和会音羽病院	病院長	二宮 清
三菱京都病院	病院長	小野晋司
京都岡本記念病院	病院長	高木敏貴
舞鶴共済病院	病院長	布施春樹